

宇宙創造の振動・波動

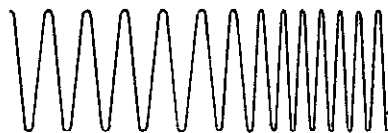
◀創造と進化のための波動▶

生命を生み出すもの、それはエネルギーです。生命はエネルギーです。この宇宙には、エネルギーが満ちています。広大な銀河や宇宙空間に、太陽や惑星に、そして地球に。全宇宙のすべてのものは、エネルギーによって成り立っています。1号でエネルギーについて書いたことを、もう一度思い出してください。エネルギーは、振り子のように固有の動き、振動を持っています。水素などの1つの原子、生き物の体の1つの細胞、植物、動物、人間、星、すべてはそれ独自の動き、振動をしています。ですからエネルギーは、固有の振動数を持って、上下しています。エネルギーには2つの流れがあります。振動数を高め上昇する流れと、振動数を低め下降する流れと、それが進化か退化を方向づけています。ですから振動はどんな時も、すべてに起こっています。全宇宙にはすべての振動が響きわたり、共鳴しあっていると云えます。その振動とはどんなものでしょうか。それを見たり感じたりできるのか、我々1人1人とどう関係してくるのか、それを考えてみたいと思います。

振動・波動とは

振動とは揺れ動くこと、振り動かすこと、振動数とは周波数と同じで、一定の時間に起こる振動の回数のことです。波動とは波、波のような動き。この波動（バイブレーション vibration）とは、揺らす、動かすという意味の vibrare というギリシャ語から来ています。そしてこのギリシャ語は、生命という言葉の語源にもなっています。

ここに1つの振り子があるとします。その振り子は、同じ所を行ったり来たりする動き、つまり振動します。その振り子の動きを図にすれば1本の線にしかありません。でも、それに時間ということを考え合わせると、それは一定の幅を持ってジグザグに進む線になります。ちょうど波のような形です。振動数が多いということは、決まった時間内に行ったり来たりする振り子の動きが多い、速く振り子が動いているということです。図に表われるジグザグ、波の形が密になります。そうすると、あらゆる



エネルギーは、それ独自の振動数を持っていますから、常に固有の波を描いていることとなります。エネルギーは規則的に、周期的に波動し、その波はあらゆる所に伝わっていきます。そして伝わっていく中で、さまざまな表現をとります。すべての物質の違い、色の違い、音の違い、形の違い、それらは振動数の違い、波の形の違いなのです。波動が違うだけになります。

ですから、すべてのものは、一つ一つが、一人一人が固有の波動、周波数を発信し、また受信する放送局、受信機のようなものです。テレビやラジオの受信チャンネルが少なければ、受けとる情報は少なく、開発された受信能力があれば、それだけ受信する力は大きくなります。そのように、我々も、植物や動物も、太陽や太陽系全体もすべて、波動を送受信しあい、同調しあい発信しています。それは常に起きている事です。今、我々が実感できる波動というものは、宇宙に響きわたっている波動のうち、ごくわずかなものに限られています。しかし、生命ある所すべてに波動、バイブレーションがあるのです。

宇宙からのエネルギーは、音と色と熱を持っています。宇宙が100%、数学的に成り立っているように、創造のオクターブの法則による7つの音、ド・レ・ミ・ファ・ソ・ラ・シの音も100%数学的なものです。宇宙に響いている音の中で、我々に聞こえる音はほんの一部です。猫や犬、鳥、は虫類は、我々に聞こえない音を聞いています。それは音として聞くというより、その音の波動を感じているのです。波の形の違いによって音を区別していると言えます。光や色についても、我々の肉眼は、ほんの少ししか見る事ができません。宇宙からの電波、ラジオ、テレビの電波、太陽や月、星からの光、大地や植物からの波動、それらの波動は絶えず、建物の壁でも地中でも人体でも通りぬけて伝わってきます。我々の五感（視・聴・味・嗅・触）で実感できなくとも、我々はいつも、このあらゆる波動の中で生き、自らも波動を発信しています。

創造の波動・バイブレーション

我々の肉体、霊、魂もそれぞれの振動数を持っています。ですから異なった波動・バイブレーションを持っています。そして、それぞれの波動というものは、我々の心理・サイキスの中で、一つの成分と色を創ります。また、すべての音が波動であるように、言葉も音楽も一つの波動です。音の波は我々の心理や魂にまで至ります。マントラの効果のことも思い出してみてください。言葉は人間のみには与えられていますが、^{言葉}「初めに言ありき」と聖書にあるように、言葉は創造のためのもの、神聖な創造の振動、波動です。言葉は音、音楽であると言えます。ですから、音楽も神聖な起源から生まれました。このように、波動・バイブレーションは創造を成します。しかし、破壊をもしてしまうものです。波動の中には低い有害なもの高い神聖なものがあります。我々は一つの受信機のようなものだと書きました。そしてこの受信の力は、良くも悪くも開発していけるものです。我々が自覚しようとしまいと、波動の中で生きるのならば、より高い波動を

受信するように、同調するように、自分の発信力を広げていくことは必要であり、すばらしいことだと思います。我々は内的進化のために、ここにいるのですから、肉体と心理のバランスをとって、魂のために、もっと気を配らなければいけないのではないのでしょうか。この肉体、今の物の豊富な生活、それらはすべて、いつかは無くなります。でも魂だけは永遠に生きるのですから、物質的な生活で肉体を養っていくことはできますが、内面の心理の進化を与えてはくれません。魂のための栄養の1つに芸術があります。それが高い洗練された波動・バイブレーションです。絵や彫刻、音楽などの芸術の中で、我々に最も深く影響し重要なのは音楽です。

◁ 音と色 ▷

音と色というと、普通それらは無関係のように思われます。でもそうでしょうか。あらゆるものの違いは振動数の違い、波動の違い、波の形の違いであると説明しました。ですから、音も色も1つの振動数で表わされる波であると言えます。すべての音の波、色の波が我々に働きかけています。それらの波動には、我々が実際に見聞きし実感できるものと、全く実感できない、我々の五感をはるかに越えるものがあります。日常生活の中で、自然の音はもちろん、様々な種類の音楽、車や機械や大変多くの音に囲まれて、我々は生活しています。色についても、同じようなことが言えます。町並みも、ほんの20~30年前と比べてさえ大変変わっています。これらの波動は、あらゆるものに影響を与えています。

音とその影響

音は波です。子どもたちの遊ぶ糸電話、あれは音(声)の波が糸を伝わって相手の耳に届くのです。音叉というものがありますが、これをただ指ではじくだけでは音はよく聞こえません。それを木箱などに立てて置き、はじきます。すると音叉の振動で木箱が共鳴し、音がよく聞こえます。また1つのへやに2台のピアノをおき、1台のピアノを弾き出せばもう1台のピアノも、自然に鳴り出します。1台のピアノから出た音の波に、もう1台が共鳴して振動し出したからです。音は振動数、つまり周波数、ヘルツ(Hz)という単位で表わされます。人間の耳に聞える音は20~24500ヘルツくらいです。これ以下でもこれ以上でも、人間の耳には聞こえません。ラジオやテレビの高い振動数の電波も、低い振動数に変えることにより、我々は聞くことができるのです。2万ヘルツ以上の高い音を超音波と言います。100ヘルツ以下を超低周波空気振動、20ヘルツ以下を超重低音、また超低周波音と言い、今、低周波公害として問題になっています。このように音は、我々の健康や生死に関係します。肉体だけでなく、心理的にも不調和や苦痛を起こします。耳に聞こえない超音波を殺人に利用したのが、松本清張の小説「

振動数
(毎秒当り)

現象

超低周波

音波
(人間の可聴範囲)

超音波

電波
(長波中波短波超短波)

電波
(超短波-マイクロ波)

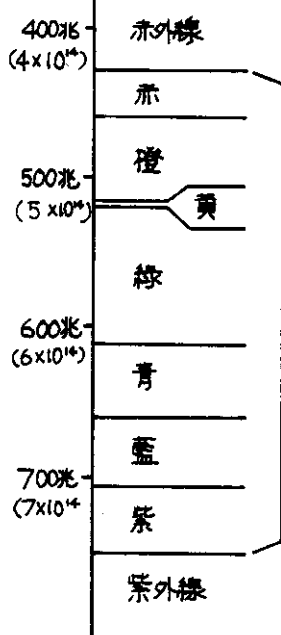
赤外線
可視光線
紫外線

レントゲン線
(X線)

ガンマ線

1
1000
(1×10^3)
100万
(1×10^6)
10億
(1×10^9)
1兆
(1×10^{12})
1000兆
(1×10^{15})
100京
(1×10^{18})
10垓
(1×10^{21})

砂の器」です。超音波によって嘔吐、めまい、頭痛、そして心臓にも異常を起こさせます。電子音楽と超音波によって心臓を麻痺させました。超低周波を例にとると、40分も聞いていれば無思考に、2時間以上では耳や鼻にうっ血し、実際に拷問でもされたようになります。さらには極限の苦痛を与えます。ナチスで実際に行われました。ですから、これからの戦争には核兵器など使わなくとも、耳に聞こえない音を使って、生命を破壊すること



さえ可能なのです。こういう極端な場合でなくとも、音が我々に及ぼす効果はいろいろあります。寺内タケシという人が、ろう見たちの前でエレキギターを演奏していると、ある時、突然子どもたちは立ち上がり、踊り

出したそうです。全身に

ギターの波動が伝わり、子どもたち

に音楽を実感させました。音は、聴覚としての

耳でとらえられなくても、我々の体全体、毛穴の1つ1つ

から体中に響きわたり、良くも悪くも影響します。気合いは、動脈の

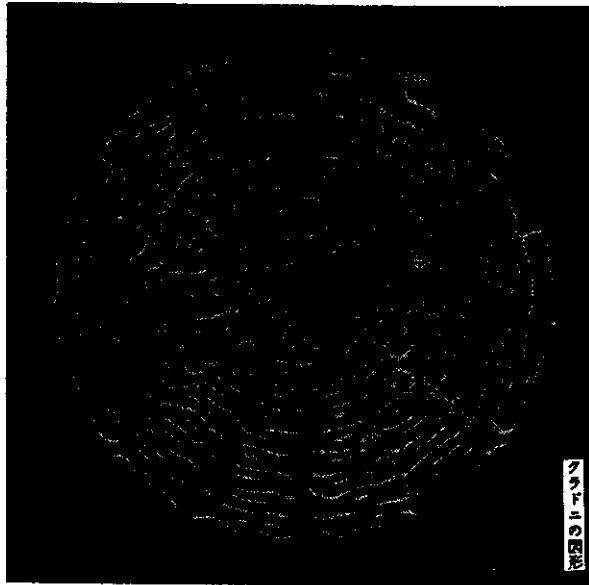
血圧を低下させる反応を引きおこし、体の一部を麻痺させます。夏の暑さの中で

聞く風鈴の音が、人体の体温を下げるという報告もあります。ですから、音、

音楽による治療も行われています。痛みをとったり、神経を休ませたり、そして、

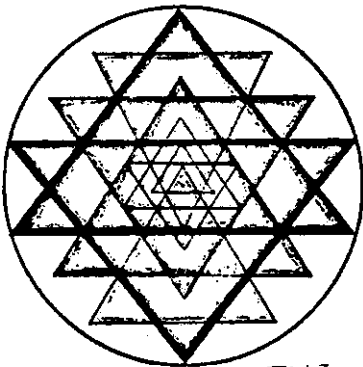
植物の成長を助けたり、妨げたりする音楽についても研究されています。

また、音は形を創ることができま
す。18世紀のドイツの物理学者、エ
ルンスト・クラドニは音楽によって、
丸い銅盤上の砂が、ある模様を形作
ることを研究しました。そしてハン
ス・イエーという人が、彼の実験
に注目し、波動と物質との相互関係
について研究しました。円盤上に液
体、プラスチック、金属、粉末をま
いて、様々な振動を与えてみました。
それらは、らせん形、同心円の年輪、
亀の甲羅、五芒星、蜂の巣の六角形
などを形作りました。そしてこの円
盤上にできる形は、平面的なものだ



けでなく立体的な、柱のような形も作りました。イエーは、人の声を画面の上
に形として表わす“トノスコープ”というものを作りました。トノスコープに向
かって声や音を発すると、それが作る形を見ることが出来るわけです。たとえ
ば、マントラのオーム(OM)を正しく発音すると、初めは円に、次に同心状の正方

形や三角形になり、最後にMの音が終わるころ、
マントラができます。マントラとは、多くの宗教
に見られる神聖な幾何学的な図形です。このトノ
スコープでいろいろの言語の形を見ると、ヘブラ
イ語、サンスクリットなど、聖なる言語と呼ばれ
るものには多くの似通った形があるのに、今の日
常的な言語は、その形にとっても多くの混乱が見ら
れるそうです。言葉一つ見ても、我々は今、大変
乱れた波動の中にいるのではないかと思われま



マントラ

色と形

色とはなんでしょう。赤いバラは、なぜ赤く見えるのでしょうか。もし、ま
暗な完全な闇だったら、色はあるのでしょうか。光がなければ、どんな色も見えま
せん。では、光とはなんでしょう。太陽の光、月や星の光、いろいろありますが
光が波であると初めて言ったのは、オランダのホイヘンスという人でした。彼が
光はエーテルからエーテルへ移動する波だと言いました。そして19世紀の科学者
トーマス・ヤングが光は波であり、光には長さの違ういろいろの波があると証明
しました。虹の7色なら、赤の波長が最も長く、紫が最も短かいと、波長が長い
ということは、振りの子の図で言うと、ジグザグの間隔が広く、振動数が少ない。
そして波長が短かいということは、ジグザグが密になり、振動数が多いというこ

とです。赤、橙、黄、緑、青、藍、紫は、赤からだんだん光の波の振動数が多くなっていきます。ニュートンは、太陽の光をプリズム（三角レンズ）で7色に分解し、そしてもう一度、プリズムを使って7色を元の太陽光線にしました。光がなにかを通る時、屈折するからです。この7色の帯を、ニュートンは、スペクトルと呼びました。スペクトルは像、イメージを意味します。ここで、赤い色のバラが見えるというのは、バラが吸収せずに反射させた光の波を見えています。黒いものはすべての光線を吸収し、白いものはすべての光線を反射させます。我々が見ている色は、その見ているものがはね返した光の波です。光もエネルギーですから、波長の違う光はエネルギーの大きさも違います。赤のエネルギーより、紫のエネルギーの方が大きくなります。

振動数が増えるにつれ、エネルギーも大きくなります。ですから、光は波長とエネルギーと振動数で表わすことができます。音も波長があり、振動数があり、エネルギーを持っています。ですから音と色は対応し、色も音と対応しています。そして音は形を創ります。このように、宇宙の中で光、色、熱、音、形はバラバラに存在しているわけではありません。ですから、音と同様、色も形も我々に様々な効果をもたらします。色と性格、色が人体や感情に及ぼす効果、色による治療、形の影響など、大変深くかかわってきます。脈、血圧、呼吸を高める赤の色あい、反対に低下させる青の色あい、ぜんそくや偏頭痛をやわらげる、ある種の黄色、ショックを静める緑など。教会のステンドグラス、特別に色の波動を増幅させるようにカットされた宝石、そして色と形を組み合わせて設計された病院や病棟、障害児の学校など。

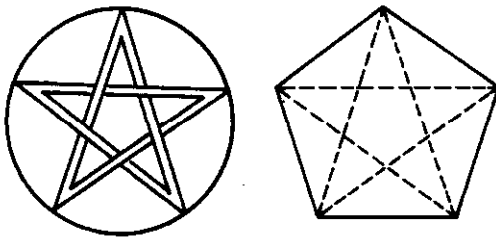
エーテル体の色		表わす意味 (すべての色に二元性、+、-がある)
白		純粋さ、健康、光
赤	明るい赤	機能的愛、力
	濃い赤	暴力
	濁った赤	性的情欲
黄		知性、論理、希望 しつと
緑	明るい緑	信頼、知、ほがらかさ
	暗い緑	不信、疑惑
青	明るい青	宗教心、献身
	暗い青	狂信
橙		喜び
茶		イニシエーション(奥義音伝)
紫		ミステイズム(神秘主義)、霊性、精神、 信仰心
灰		ねたみ、変移
黒		神秘、無
		無知、死

音と色の対応						
ド	レ	ミ	ファ	ソ	ラ	シ
赤	橙	黄	緑	青	藍	紫

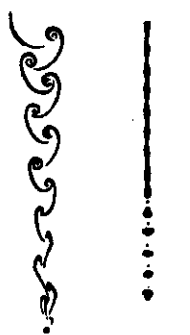
また、正四面体は外からの圧力に大変強く、球は内部の圧力に耐えられます。しゃぼん玉、ガスタック、エスキモーの雪の家、寺院のドーム屋根などがそうです。普通の屋根（人）は、住

む人の心理を落ちつかせ現実的にさせます。逆の形（V）は、気分を高揚させ妄想など、精神状態を変えてしまいます。以前、防御として説明したペンタグラム（星形・五芒星）も、非常なエネルギーを集中させます。このペンタグラムの形は多くの国々で利用しています。

ワシントンにあるペンタゴン（国防総省の正五角形の建物）もその一つです。何千年もミイラを保存してきたピラミッドは、多くの人々が実験し、ピラミッドパワーなどと言われています。ピラミッドの



中においたものが腐敗しにくいことを利用して、牛乳やジュースの紙容器の形に使われています。また、カミソリの刃を満月の光の中におくと、切れにくくなりますが、これは、太陽の反射光である月の光が一定方向に振動しているために、カミソリの刃の鉾石がその方向に押され刃先が鈍るからです。それを、模型ピラミッドの中に入れておくと、数時間で切れ味もどり、長期間、保ちます。このように、ある特定の形は、その形が引きつける特別のエネルギーを集中し、増幅させます。ですから、セラミッドは巨大なエネルギーのコンデンサ（蓄電器）でもあります。また、形というものの中には、大変深い数学的な神秘が含まれています。らせん一つを見ても、原爆のキノコ雲と山野のキノコとが、同じ渦巻の法則で支配されています。水中の微生物の滴虫と我々の遺伝子のらせん、貝がら、鹿の角、そして、太陽系そのものも、光輝く精子や繊毛をもった滴虫のように、宇宙全体の中で、らせん運動しながら動いています。らせんは、混沌から秩序を生み出すエネルギーの形です。始めも終わりも無限につながり、すべてはらせんを描いています。今の人類は、宇宙に満ちているこのエネルギーの波動を寄せつ



水の基本的運動

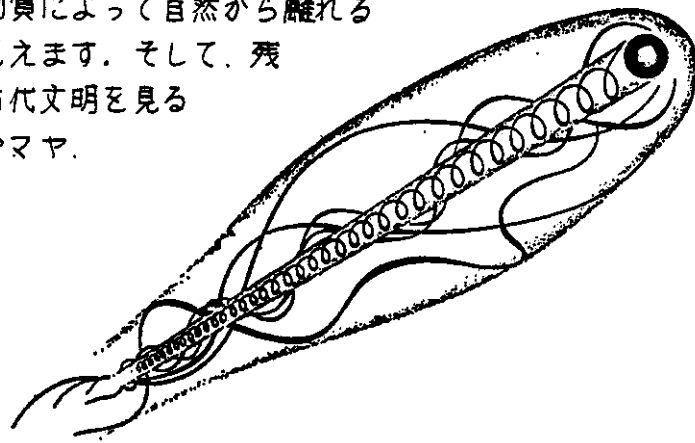


滴虫

けず、機械や物質によって自然から離れる一方のように見えます。そして、残された偉大な古代文明を見る時、エジプトやマヤ、

アステカの人たちは、我々の及びもつかないエネルギーを操作し、宇宙のすばら

しい波動に調和して生きていたことを感じます。

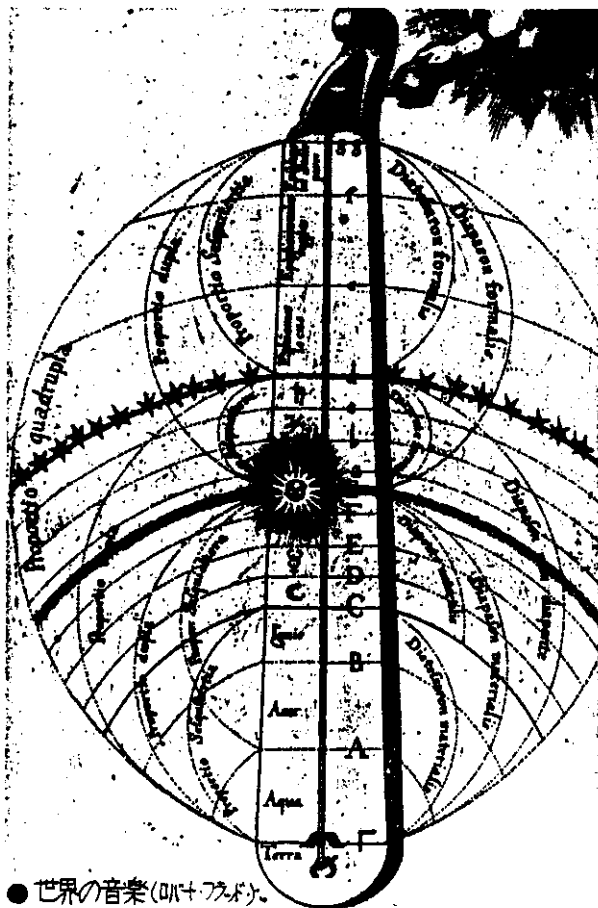


◎ 図一 八十年という「マクロ的瞬間」でとらえた「太陽系」の長い身体。四八〇億キロメートルという遠さをなびかせたエネルギーの電子が、木星とヘラクレス座の間の空間を縦横運動している。「ロドニー・コリン」天体の影響に関する理論（ヤロ）

◁ 音楽と人間 ▷

宇宙を支える音楽

数学のピタゴラスの定理で知られるピタゴラスは、音楽はいろいろな世界の音であると言いました。彼は単なる数学者ではありません。宇宙の万物を支配する数学的な関係、法則の奥儀を研究しました。輪廻転生を唱えた彼は、教と幾何学、奇数と偶数など、すべてに見られる教の神秘を研究しました。そして、教と音との関係についても研究しました。ここに、バイオリンなどの弦楽器があるとします。その弦をはじけば、1つの音が出ます。ドだとします。その弦を2倍の長さにするると、元の音より1オクターブ低いドの音が出ます。そして、彼は、宇宙も1つの弦楽器のようなものだと考えました。宇宙の絶対太陽から、それぞれの惑星の距離に応じて異なる音を



● 世界の音楽 (ピタゴラス)。ピタゴラスの思想に基づいて書かれた音と宇宙の関係。

出している。それらの音が宇宙のオクターブであり、全宇宙に調和して響いている。5号の6ページ、7つの宇宙の図表に宇宙の音がありますので、参考にしてください。太陽系の音はファの音です。太陽は生命を与えます。生命を表わすほら貝の音はファの音がします。そして、ルーン文字のルーン・ファ、これが太陽エネルギーを受けとるためのものです。

波動と現実

宇宙の中では、原子のようなものから人間、太陽系という巨大なものまで、1つ1つが固有の動きをしています。そして、前号で1つ1つが磁石であると説明しました。ですから、すべてが波を打ち、磁石としての磁場を持ち、その磁場の中で活動し交信しあっています。人体も固有の振動、波を発信しています。それらは脳波、心電図、筋電図として、体内の電気の流れを表わしています。人体全体としても1つのリズム、波を打ち、体内の1つ1つの細胞も波を打っています。ですから、1つの細胞や脳細胞が磁場を持ち、その中で活動しています。細胞は細胞記憶を持ち、自分の活動範囲を知っています。我々の脳細胞は、天才でさえ13%くらいしか働けないような磁場しか持っていません。それ以上、開発もせず培ってもないからです。交信力の弱い、チャンネルの少ないテレビのように、本当は見聞きできるものを感じることもできません。我々の磁石の力を強め磁場を広げていくものに、高い波動、バイブレーションがあります。ここで、すべての音、波動は我々の肉体だけでなく、心理や魂にまで届くことを思い出してください。すべてのものに二面性があるように、すべての音、音楽にも進化へ導くものと、頽廃へ流れるものとがあります。ですから、もし進化を願うなら、音楽に対しても進化に役立つものを選び、そうでないものは避けていく必要があります。我々は日々の生活の中で、普通、音を聞かない日はありません。特に現代は、どこに行っても、いつも音でいっぱいです。雨や風の音、水が流れる音、鳥の声、木々が風にうたう音、そんな音が懐しく思われるほど、ラジオやテレビ、カラオケ、車や機械の音、ディスコと、あらゆる音、騒音の中で暮らしています。皆さんは、どんな音楽が好きですか？我々の肉体は感覚的なものです。そして音楽の波動は、我々の感覚や感情に訴えてきます。肉体の細胞がその感覚に慣れると、磁気の法則によって、それと同じものを引きつける力も強くなります。ですから、音楽の好み、印象は、人それぞれ、自分がなじんできたものによって異なります。聞きなれない種類の音楽は好きになれない、聞きたくないと感じませんか。でも、その時、本当はどんなことが起こっていると思いますか。すべての音は良くも悪くも、ある効果を持ち色や成分を作ります。自然界の音は、我々の体内の自然、自然のリズムを調和させるもので、害はありません。

音楽は作曲者の心理によって創られます。また、作曲者の人生にも関係してきます。ジャズは、黒人奴隷の苦悩の中から生まれました。ですから聞く人を、その苦悩の波動に同調させます。行進曲は、我々を闘いにかりたてます。チャチャ

チャ、タンゴなどラテン音楽、ツイストやゴゴの音楽は、人体の下半身、腰などに共振し、性的な感情を呼び起こします。日本の古い音楽、伝統音楽は陰音階でできています。これは1オクターブの7音のうち、5音しか使わず、それだけ脳を共振させる部分が少なくなります。害はありませんが、それ以上の開発を促すことはなく、結果的に、我々を停滞させます。歌舞伎は、日本の禪庵期に始まりました。そして、男の人が女の振りをします。これはエネルギー的にも、十と十で大変おかしいものです。このようなことは、たとえ、表面的にはすばらしく感じて、我々の意識はそれを受けとりません。伝統的なものは害はありませんが、積極的に進化を促すものではありません。時代が変わり、世界中のニュースが短時間で伝えられるコンピューターや、エレクトロニクスの時代に、山奥で一人、悟りを得ようとするのが、あまりにも時代遅れであるのと同様です。ただ、神話の中には、大変深いメッセージが残っています。

今、ロックがかかっているとします。すぐにリズムに来る人や、耳をふさぎたくなる人がいます。ロックやジャズなどの音楽は、大変悪影響があります。心理的にも、体中の細胞や脳細胞に破壊的に働きかけます。我々のオーラ（発光体）を汚染し、あまりに激しい時は、オーラに穴をあけさせます。それらは大変低い重い波動なので、人体の低い所に共振し、肉欲の感情、破壊的な心理を招き、病気や禪庵へつながります。スペインの統計で、ディスコで一晩すごすと、肉体の疲れが完全にとれるためには3日間の休養が必要だという報告があります。一時的な難聴にもなります。

一人のアイドル歌手を例にすると、歌手も歌も商品であり、目的はどれだけでもうけるかです。もうける側の人間は、性的なイメージが最も強く焼きつけられるという人間の心理をよく知っています。ですから、性的にこびた歌、衣装、ポルノ的なポスターと、あらゆる手を使っています。人間の禪庵には目も向けません。売れること、もうけることがすべてです。多くのファンにとって、アイドルは性的なシンボルになっています。自覚しなくても、心理的にそのようなイメージを積み重ねています。ほんの少しでも、性的な感情で人を見るなら、指一本小れずにその人のオーラを性的に汚染します。そして、歌手の細胞も、ファンの人たちの細胞も性的なもので満たされていきます。そして、それらはさらに同じものを引きつけ、ますます禪庵していきます。結局、みんな犠牲者です。でも、ディスコや禪庵的な音楽、性的危機を、本当に真剣に感じる大人が少ないということは、大変重大です。同じロックでも、ほんの数年前と比べても、非常に破壊的な悪影響の度合いを強めています。このような音楽が日常的にあかれています。そして若い人が特に影響を受けています。こんなことが当然として続いていくなれば、日本人全体が本当に禪庵していくでしょう。子どもたちは、性エネルギーが正常に熟す前に消費させられ、生命エネルギーを失っていきます。肉体はもちろん、育てられるべき心も感性も麻痺させられていき、進化のための人生を曲げられて

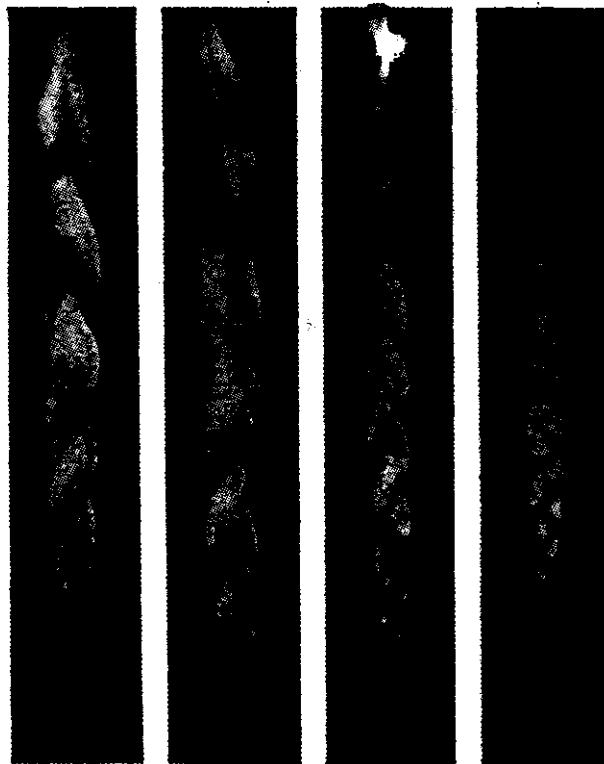
しまうこととなります。有害な音から身を守るのは大変困難です。音は振動ですから、全身の毛穴を通して侵入してきます。自分が選択していくしかありません。自然界のリズムで、一瞬にすべてが変わるということはありません。すべては段階的に変わります。ですから、我々の細胞も7年毎に変わります。習慣として聞き親しんできた音楽を、少しずつ意識をもって変えていくことができます。それによって、自分が作ってきた価値観、体内に積み重ねた悪い成分をより高いものへ変えていくことができるのです。このようにして、自分自身で自分の肉体も心理もきれいに、清らかに洗練していくことができます。

我々は、健康のためには食物や運動、睡眠など、様々な気を配ります。でも、この三次元で、食物に関する法則は、全体の法則の中の4しかありません。そして、食物は肉体の栄養です。安全であるにこしたことはありませんが、絶対的なことではありません。いくら頑丈な肉体を作っても、魂の乗り物もなく心理の汚れもそのままでは、永遠を生きなければならない我々の魂はどこへ行けるといえるのでしょうか。このように、自分の好みや聞いている時の印象とは別に、本当に起きていることを知らなければならないと思います。表面的なことではなく、自分の肉体と心理に本当に起きていること、それが本当の現実です。

進化のための波動

音楽は神聖な起源を持っています。すべての古代文明の中では、宗教儀式の時、

音楽が使われました。これが社会における音楽の起源です。ですから、すべての音楽は宗教音楽から来ています。それは、古代の神託政治の儀式から生まれました。宗教儀式に使われる楽器は、聞く人の体内に共振し、高次からのメッセージを受け取るために人々を内的に準備させました。鐘の音は人体の神経の緊張を和らげ、太鼓は血液循環を促し、木魚はリンパ系に共振し、拍子木は脊柱の調和に役立ち、ゴングはチャクラ(2号参照)を活動させ、竹の笛は内臓器官のバランスを助けます。マラカスの音はS…という、歯をかみあわせて息を吐いた時



上手なバイオリン

下手なバイオリン

フルート

フレンチホルン

音楽に反応するは空気の層の動き。

の音で、コブラやガラガラ蛇の音です。これは性エネルギーを象徴し、我々の性ホルモンを活動させます。また、こおろぎ、松虫、鈴虫などの音は単調なくり返して我々の脳波に同調します。我々のマインド（想念、頭）をリラックスさせ瞑想に役立ちます。また潜在意識の49段階にも影響を与えます。幽体離脱という、肉体からアストラル体がぬけ出ることも助けます。これは夢のテーマの時、説明します。スートラ（お経）やマントラ（真言）、キリスト教のグレゴリアン聖歌なども、我々に大変多くの働きかけをします。そして、言葉もマインド（想念、頭）をリラックスさせたり、治療に役立ちます。そして、自然界のエネルギーを操作、コントロールする言葉、高次との交信を可能にする言葉さえあります。言葉もエネルギーであり、創造の力があるからです。

このような宗教音楽が民衆のものになって、民族音楽が生まれました。そして、それらが商業と結びつき、頹廢へと流れていきました。しかし、時代や国境を越え、人々の魂や意識に訴えてくる音楽があります。それが、我々の人体の上部に共振してくる高い波動の音楽です。それらは、肉体にも心理にも大変良い影響があり、体のすべての細胞に調和を与えます。そして、我々の純粋な愛や喜びの高等感情に共振し育てます。ピタゴラスは、人間も楽器と同様、正しい音が出るように調節することによって病気が治ると考え、美しい音楽によって治療を行いました。そのような高い波動の音楽とは、一般的にはクラシックと呼ばれるものですが、西洋の古典音楽が良いというわけではありません。バッハ、ベートーベン、モーツァルト、ハイドン、ヘンデル、ワーグナー、プッチーニ、ヴェルディ、メンデルスゾーンなど、古典期からロマン派の作曲家の作品に多いのですが、それらは内的に高い感情を持った人々の作曲した音楽ということです。国籍にも、この世的な地位にも関係なく、また音楽の面だけでなく、本当に教智を求めた人々の作品は、真の高次からのメッセージ、教智を伝えます。貴族社会の多くの制約の中で、人類のために伝えるべきことを曲として残しました。それらは、我々の脳の上の部分活動をさせ、オーラの洗浄もします。魂に国境はありません。時代を越え、現代にも未来に向かっても、メッセージを伝え続けています。それらの作曲家たちは、本当に普遍的な人たちです。高い音楽の波動は魂の栄養になります。

またオペラ（歌劇）は物語、お話ですが、それを音楽の波動を通して我々の意識に伝えます。オペラには、天地創造、神話、人類の歴史、聖書など、すべての知識、教智が含まれています。ですから、シンボル（象徴）の意味や知識を持っているなら、正しく深く理解し、受けとることができます。

ここで注意したいのは、パガニーニとタルティーニです。この2人のバイオリニストの作品は、ほとんどお進めできません。彼らは悪魔の音楽家と呼ばれます。彼らの作品は神経系統に悪影響を与えます。我々が胎児の時に受けとった波動は、潜在的に持っています。そしてその後も、有害な波動を受け続けています。です

から、悪い波動は記録しなおす必要があります。低い波動の上に高い波動を録音し、記録を変えることができます。しかし、高い波動が低いものに消されることはありません。ですから、教育、特に小さい時からの教育がどんなに重要か、おわかりになると思います。理解できないものを培かっていくことはできません。培かれないものは停滞し、枯れてしまいます。大事なことは本当の現実を見ること、そして培かうことです。

最後に何人かの作曲者について簡単に書きます。そして彼らの音楽を、超視覚によってとらえた像、イメージをのせます。本当は美しい色あい、そして曲に乗って色も形も生きてるように変化するものなのですが、それをお伝えできないことをおわびします。皆さんの感性とイメージで感じとってください。

☆ベートーベン——我々のエゴ根絶という厳しい道への励ましを与えるもの。

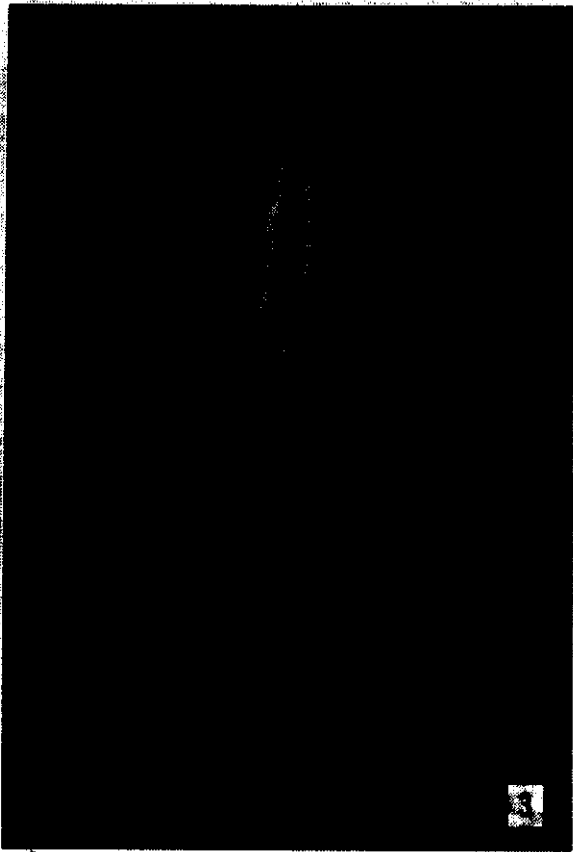
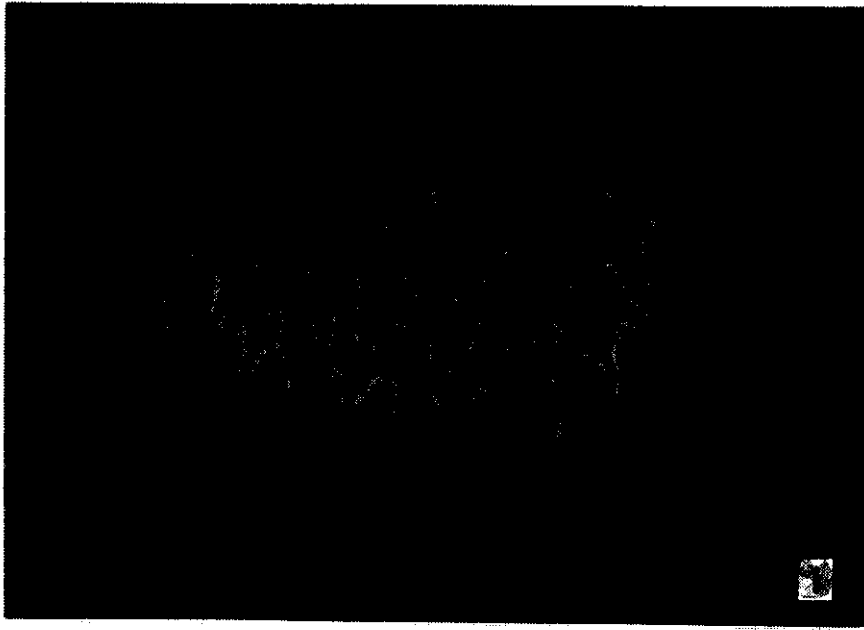
「月光ソナタ」は、銀色のような波動を、「田園交響曲」では緑色を、「英雄」では赤い色を感じさせます。この英雄の曲はナポレオンに捧げるものでしたが、彼が独裁に走ったために名前を変えました。第九交響曲は、ベートーベンの耳が聞こえなくなっただけからの作品です。この曲を売って友人を助けました。すべての人類と生きものの平和、幸福を願って作曲されました。特に第3楽章では青と金色の光線を発散します。

☆バッハ——宗教音楽が多く、その中に天からのメッセージ、数学的な象徴をこのていいます。聞く人の意識に神聖なメッセージを伝えます。ドーム形のイメージが多い。

☆モーツァルト——愛や喜びを与える。宗教音楽も多い。オペラ「魔笛」は性の秘密を伝えています。細かい刺しゅうのようなイメージ。またミサ曲のラテン語はマントラのような効果を持っています。

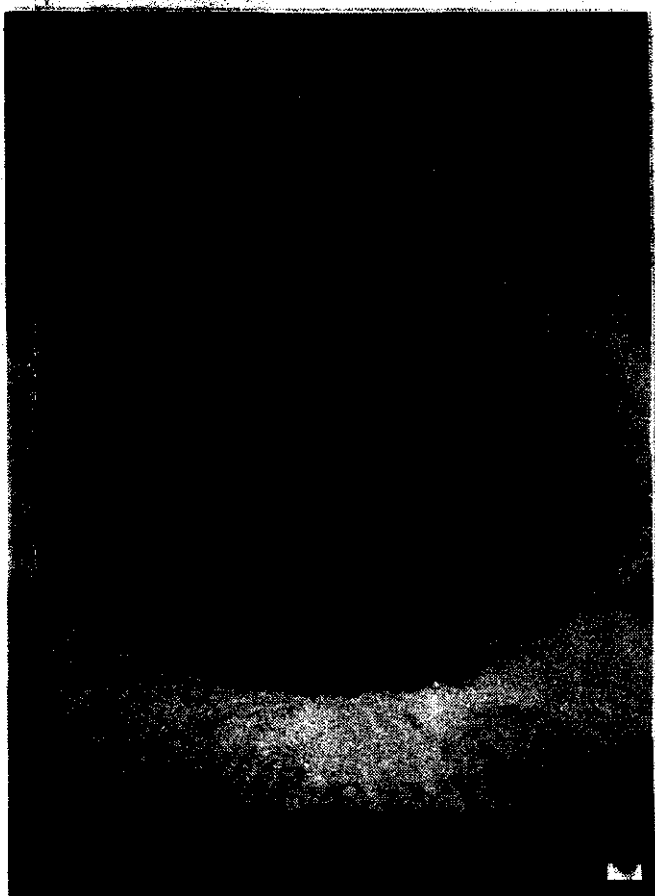
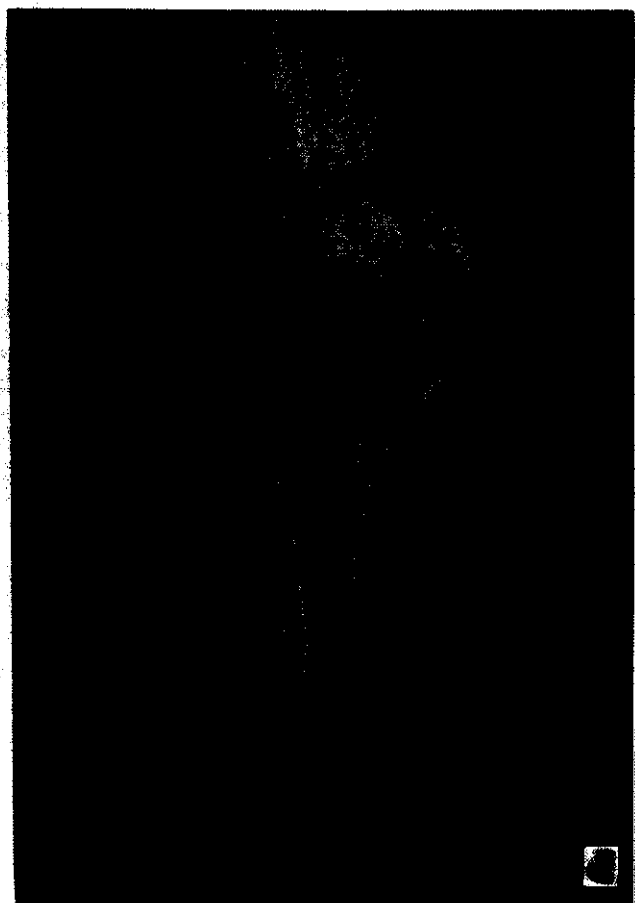
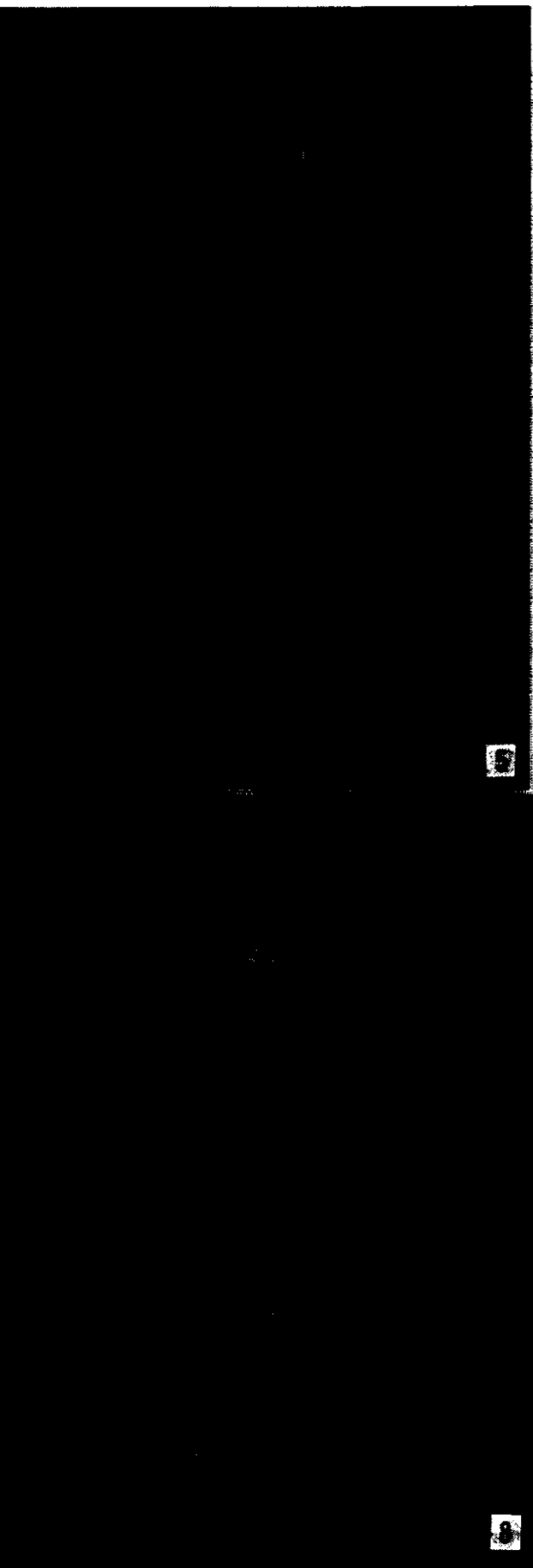
☆ワーグナー——初期と後期の作品では波動に大変違いがあり、晩年の作品ほど高い洗練された波動を感じさせ、我々を高次へと導びいています。オペラ「パルジファル」は仏陀の進化の過程を音楽にしたもの。仏陀に捧げようとしたが、白人社会の人種的偏見のためできませんでした。聖杯の歴史と悟りの境地に至る歴史は、釈迦の歴史です。すばらしいペンタグラムと光のイメージが表われます。

このように、音楽は100%数学的なものであり、色や形、香、味さえも伴って、我々を心の奥底から揺り動かします。



1. ヘンデル「調子のいい銀冷屋」
終わりの部分
2. " "
初めの部分
3. " 「ラルゴ」
4. " 「キングオブキング」のハルシヤコーラス
(オルガン合唱)
5. モーツァルト「オルガンプレリュードハ短調」
曲の初め
6. " "
曲の終わり
7. ワグナー オペラ「バルジファル」
8. " 「マイスタージンガー」
9. バッハ「プレリュード嬰ハ短調」





100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200